

「博士課程教育リーディングプログラム」中間評価結果

機関名	東北大学	整理番号	M01
プログラム名称	グローバル安全学トップリーダー育成プログラム		
プログラム責任者	花輪 公雄	プログラム コーディネーター	湯上 浩雄

◇博士課程教育リーディングプログラム委員会における評価（公表用）

〔総括評価〕

計画どおりの取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を達成することが期待できる。

〔コメント〕

リーダーを養成する学位プログラムの確立については、全学的な組織を立ち上げ、既存の研究科における学位との差別化が行われており、かつ本プログラムの優位性が明らかにされている。学生の自主企画活動において学生の成長が見られることも評価できる。今後は、本プログラムの修了生であることが広く社会に認知されるような工夫を講じることが望ましい。

産学官民参画による修了者のグローバルリーダーとしての成長及び活躍の実現性について、学生は、大学の研究者だけでなく民間企業への就職もかなりの程度視野に入れており、バランスの取れた将来展望が期待される。安全学の分野では、特に国際的な活躍を志向する学生が輩出されることが望ましい。

グローバルに活躍するリーダーを養成する指導体制の整備については、本プログラムの趣旨に対する関係教員の意識統一が図られており、今後の着実な体制整備が期待できる。ただし、指導内容の客観的妥当性については明らかではないため、FDなどの実施とともに関係教員間での意見交換が必要であろう。

優秀な学生の獲得については、留学生、他大学出身者の割合も徐々に増え、多様性が出てきている。しかし、欧米諸国からの留学生が少ない点については一層の努力が必要である。

世界に通用する確かな学位の質保証システムについては、本プログラムの評価に当たっては、長期的な視点が必要であるが、現行の水準を保持すれば問題はないと判断でき、評価できる。東北大学として研究に関する実績は十分に認められるが、安全学の分野では、他の学術分野と異なり、論文のインパクトファクターなどが客観的な判断の指標とはならず、研究成果の実践性が高いことが重要であるため、教育研究の成果をより実践的に反映させる仕組みを構築することが望まれる。

事業の定着・発展について、支援期間終了を視野に入れ、本プログラムを国際共同大学院の災害科学安全学分野へ移行及び発展させる計画がすでに構想されているため、特段の問題はないと判断できる。